

### 「医学コース」に関する茨城新聞の解説です。

前号(365号)で報告したとおり、来年度から本校は「**医学コース設置校**」となります。このことは、今年度で開校11年目となる本校にとって「**新たな一歩**」になります。なお、この「医学コース」設置は「**茨城県医師不足緊急対策行動宣言**」に基づいています。下の茨城新聞の解説を読んでいただくと、コース設置の意義がわかると思います。

#### 県立校に医学コース

県立高校や中等教育学校に来年春、「医学コース」が新設される。本県の深刻な医師不足を背景に、「医師の卵」養成に向けた動きが、先進的に取り組みを進める私立高だけでなく、公立高にも広がり始めた。県教委によると、今春の医学部進学者は県内全体で計1255人(既卒者を含む)。そのうち県立学校は55人で、医学コースが新設される5校は計43人になる。

内訳を見ると、水戸19人、土浦13人、並木中等教育学校9人、日立12人。(古河中等教育学校は13年

置し、医学部進学セミナーなどで学んできた。日立一ではサイエンス科

に医学系進学コースを設け、最先端医療や地域医療などをテーマにした小論文指導や集団討論などに励む。

古河中等教育学校では教

別対応にとどまっていた経緯があるため、医学部志望者だけのクラス編成で特化したメニューを提供するなど、さらなる人材確保に向け、県内で統一的な環境整備を進める。(県教委)ため、新コースの設置に踏み

切った。

#### 広がる「医師の卵」養成

県内ではこれまでも、一部の県立学校で、医療を担う人材育成に向けた取り組みを進めてきた。県教委によると、緑岡と

竜ヶ崎一では11年度から、医療や科学技術を担う人材育成を目的に、「医学・難関理工系進学コース」を設

育目標に「ハイレベルな授業を実施し、医学部への進学を可能にする高い学力の育成」を掲げる。加えて、医学を志す生徒向けの取り組みとして、医療機関の見

学や医療関係者による講演会なども実践してきた。しかし、学校単位での個

また、県内では医学部を志す高校生が比較的少ないという、仕組みづくりを通して「医学部志望者の掘り起し」(県教委)にも期待を寄せる。

一方、県内の私立高では医師不足を受け、主に医学部進学を目標にしたコース

大井川和彦知事は医師の県内定着に向けた仕組みづくりの必要性を挙げ、「入り口として、まず地元出身の医師を増やすという努力は必要。医師を志す若者をバックアップし、将来の茨

城の医療を担う医師の養成につなげたい」と力を込めた。(朝倉洋)

◆二〇一八年七月一八日付 茨城新聞 二三面

◆この記事については、茨城新聞社様より掲載の許可をいただいております。